

尊厳を守り、介助者にやさしい排泄ケア

社会福祉法人生活クラブ（池田徹理事長）の介護施設では排泄ケアに欠かせないツールとなっているのが「FUNレストテーブル」。前傾になつた高齢者上半身を「面」で支えるテーブル型の手すりだ。重度の人でもトイレでの排泄を可能にする上に、介助者一人でも安全に移乗することができる。メーカーの高島屋スペースクリエイツによると、一度使った施設からのリピートや、口コミでの広がりでコンスタントに売り上げを伸ばしているという。人材不足が加速する中で、改めて注目したい製品だ。



島田施設長



FUNレストテーブルの使い方を説明する秋山さん（上）脱衣所にも設置してある

在宅サービスの複合施設「生活クラブ風の村いなげ」

「生活クラブ風の村いなげ」は2011年の開設でグループの中では比較的新しい施設だ。新築にあたっては、サービス TABLEがない介護は考えられません（秋山さん）。

ユニットリーダーの秋山亮輔さんは話す。介助ができるというから

ショートステイの個室、通所介護の共用のトイレ、脱衣所など必要と考えられる場所全てに「FUNレストテーブル」を設置した。

「自宅ではおむつでも、これがあるから」とはトレイに行くことができる。FUNレスト

テーブルがない介護は考えられません（秋山さん）。

立つことができなくなりた高齢者でも、座ることができるれば、介護者が一人でトイレ誘導と排泄

驚く。

2人介助の時に、前で支える介助者の役割を担うのが、テーブル。高齢者

がテーブルに両肘を付けて立たせる。ボディメカニクスを踏まえた介助法で腰への負担も少ない。

狭い個室用トイレで後ろからの介助のスペースを確保するために、扉を引き戸にしているのは設

計上工夫した点だ。現場では、背が低い高齢者が踏ん張れるように足台をつくったり、膝が折れないよう便器の前に台を置いていたりと、一人ひとりの状況にあわせ職員が工夫しながら上手に使いこなしていた。

「FUNレストテーブル」は、人間生理学に基づいた介護の技術を提唱している上野文規氏の指導で高島屋スペースクリエイツが製品化したものだ。すでに2002年に

はパイロット版を完成させしており、20年近い歴史がある。風の村での導入は上野氏に、介護技術の指導を依頼したのがきっかけだ。当時、第1棟目の「特養ホーム八街」では立ちゆかなくなつていたことが背景にある。

本的な考え方を理解することが大事だと学びました」そう話すのは、風の村いなげの施設長で法人常務理事である島田朋子さん。当時の現場改革担当者で、現在も教育担当だ。「FUNレストテーブル」だけでなく、骨盤を立て足の裏に圧をかける正しい座位を保つことなどを生みリハビリの考えを基本的なケアに取り入れ、質の底上げを図ってきた。ベテランが新しい職員に伝えられたことで、県内7カ所の拠点に浸透しているという。

テーブル型の手すり 全個室のトイレに設置

生活クラブ風の村いなげ

1 2 3 4 5
6 7 8 9 10

生活クラブグループの「10の基本ケア」私たちのケア
あなたの嬉しい暮らし」を実現する
10の基本ケア
私たちのケア
あなたの嬉しい暮らし」を実現する